

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩 2020年度通常総会 報告

日時:2020年5月31日(日) 14時から14時40分まで

会場:特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩 事務所(調布市)

司会:蓑田明子(事務局)

1 理事長挨拶

今年度の総会は、例年使用している東京都国分寺労政会館が新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため休館で使用できず、会場を多摩デポ事務所に變更して開催することにしました。また、いわゆる「三密」を避ける意味で出席者を最低限に絞り込むため、やむなく会員の皆様には書面での表決参加をお願いしました。皆様のご協力もあり、総会成立の定足数を上回る表決票・委任状をいただくことができ、無事総会を開催できますことに感謝申し上げます。

2 総会成立(定足数)の確認

正会員総数:85(個人83名、団体2団体)

定足数(正会員総数×1÷2):43

出席者5、書面表決出席者47、委任状出席13、合計65で定足数を満たしており、総会は成立。

3 議長の選出

座間直壯氏を選出。

4 議事録署名人および書記の選出

議長の指名により、議事録署名人には田中ヒロ氏と蓑田明子氏を、書記には雨谷逸枝氏を選出。

5 議事

(1) 第一号議案 2019年度事業報告承認について

説明(堀 渡 事務局長)

※議案書(事前に郵送配布)に沿って説明

- ・バーチャルな共同保存図書館の面では、多摩の全自治体を対象に調査したTAMALAS個別処理システムの活用実態調査からについて、多くの自治体で日常的な利用があるという実態を確認できた。多摩の自治体の図書館は互いに希少な蔵書の共同保存に努めていると言える。この結果はホームページで公表している。一括処理システムについては市町村立図書館長協議会の除籍資料担当者会でもデモンストレーションを行い、現在9自治体にID・パスワードを発行している。
- ・リアル共同保存図書館については、全国公共図書館協議会が2019年3月に発表した全国調査報告書によれば、既に先行事例があることがわかり意を強くしたが、私たち自身は提案できるような具体案を検討するには至っていない。
- ・ISBNのない資料の書誌同定について、(株)カーリルとの共同研究を継続中。調布市立中央図書館で、同社が開発したオープンブックカメラを使用して多摩川関係の地域資料の書影撮影を行った。
- ・図書館資料の里親探しについては、4件(40冊)の募集に対し、7自治体(13冊)の譲渡が成立した。欠本補充に充てるなど、蔵書の維持への気配りが感じられた。
- ・『多摩デポ通信』は、第50～53号を発行。ブックレットは、2018年度総会時の塩見昇氏の講演を、第14号『図書館づくりの現況から「保存」を考える』として発行。
- ・3回目の多摩デポ講座は、東京都立中央図書館の資料保存についての見学会を企画したが、同館の新型コロナウイルス感染防止対応で実施できなくなった。新年度に改めて企画する。
- ・ホームページを活用したアンケート調査を初めて実施。最新の情報の提供に努めている。

・freeml のサービス終了に伴い、メーリングリストはさくらインターネットのサービスに移行した。

質疑 なし

採決 全会一致で承認(本人+委任18、書面賛成47)

(2) 第二号議案 2019年度決算報告及び監査報告承認について

説明(堀 渡 事務局長、田中ヒロ 会計)

※議案書に沿って説明。

- ・**決算**が黒字にできたのは、大口の寄付があったため。財政事情の苦しさは継続している。来年度も緊縮財政に変わりはない。
- ・ブックレットの本体価格を今年度発行分から値上げしたことによる売れ行き減少の傾向は見られず、収益増につながった。

監査報告(堀 渡 事務局長)

「いずれも適法かつ妥当と認める」との監査報告書を代読。

質疑 なし

採決 全会一致で承認(本人+委任18、書面賛成47)

(3) 第三号議案 2020年度事業計画決定について

説明(堀 渡 事務局長)

※議案書に沿って説明。

- ・新型コロナウイルス感染拡大が収まりを見せない限り、今年度の活動は限定せざるを得なくなっているが、総会に寄せられた書面での意見も生かして、できる限りのことを進める。
- ・TAMALASを利用したバーチャル保存図書館が進むほどリアルな共同保存図書館の必要性は増しているものの、解決策を提案できるには至っていない。全国公共図書館協議会の『公立図書館における蔵書構成・管理に関する実態調査報告書』(2019年3月)や市町村立図書館長協議会の『多摩地域における共同利用図書館調査報告書』(2015年)を力に、事業化を目指した検討を行う。
- ・ISBNなし資料の機械的な同定識別について、昨年度撮影した書影データを活用した研究を(株)カーリルとともに進めていく。
- ・ブックレットについては、今年度の総会記念講演に予定していた山口源治郎氏の講演を多摩デポ講座として実施し、その内容を第15号として発行する予定。多摩デポ講座は、他に、東京都立中央図書館の見学と東京都公文書館の見学を予定している。

質疑

- ・共同保存図書館は、やはりバーチャルだけでなく、リアル施設実現の切実さが高まっているとありました。本来は都立図書館がその機能を持つべきとしながらも、いろいろな方法を模索されるようですね。都立図書館再編問題が起きた 2002 年には、市民活動サービスコーナーも撤廃されました。その時の担当者等が中心になって、2006 年 10 月に「市民活動資料・情報センターをつくる会」が発足、2010 年 7 月に「市民活動資料センター基金」が創設され、「市民アーカイブ多摩」が 2014 年 4 月に開館にこぎつけたこと、8,000 万円をあつめるのは大変だった、とありますが、参考にならないでしょうか。(書面での意見)
- ・多摩デポ講座で、今回の COVID-19(Corona Virus Disease2019)と公共図書館に関するテーマを扱ってはいかがでしょうか。(書面での意見)

採決 全会一致で承認(本人+委任18、書面賛成47)

(4) 第四号議案 2020年度活動予算決定について

説明(堀 渡 事務局長、田中ヒロ 会計)

※議案書に沿って説明

- ・昨年度の大口寄付を受け、今年度は会費の値上げは行わないことにして予算を組んだ。例年出している「事業別内訳」は、今年度の活動の先行きが新型コロナウイルス感染拡大の状況により見通せないため、予算書には載せなかった。
- ・ブックレットについては、山口氏の講演が実施できることを前提に計上した。

質疑 なし

採決 全会一致で承認(本人＋委任18、書面賛成47)

7 議長及び書記の解任

8 理事長挨拶・閉会

今年度の総会開催については、事務局長が東京都の担当者とも再三打ち合わせを行い、日程の延期についても検討しましたが、前年の活動報告等の提出が6月末までと決められていることに猶予や変更はないということで、大変残念なのですが今回のような方法を探ることになりました。多摩デボは今、重要な局面を迎えており、多くの会員にお集まりいただいて様々な意見交換をしたかったのですが、叶いませんでした。例年よりも多くの方に、書面での「全議案賛成」の意思表示やご意見をいただいておりますので、いずれ早い時期にそのような場面を考えたいと思っています。

以上

上記記録には、個別に記載しなかったご意見

- ・全文拝読しましたが、議案に賛成で、各議案について特に記すべき意見はありません。

労いのお言葉もいただきました。記して感謝申し上げます

- ・大変な状況のなか、総会の準備にかかわられたみな様、ありがとうございます。また、いつか笑顔でお目にかかれること楽しみにしています。
- ・コロナの影響の大きいこと！！小学校の図書室に勤めているのですが、3月の中旬から子どもたちに会えず…。私も自宅研修となっています。皆様もどうぞご自愛くださいませ。
- ・ご苦労様です。